

# 茨城県生物多様性センター一年報 No. 2

平成28年4月～平成29年3月



ツクバハコネサンショウウオ(国内希少野生動物)

茨城県生活環境部環境政策課  
生物多様性センター

表紙写真：ツクバハコネサンショウウオ  
(平成26年4月16日 早瀬長利撮影)

## まえがき

国際的に生物多様性への危機感が高まり、1992年に生物多様性条約が採択されて以来、生物多様性の保全や生態系の持続的な利用について、各種条約や国の法律が制定されてきました。

本県においても、平成25年に「第3次茨城県環境基本計画」を策定し、生物多様性に関する施策の充実を図る中で、平成26年10月に「茨城の生物多様性戦略」の策定、平成27年4月に、茨城県生物多様性センターの設置と進めてまいりました。

茨城県生物多様性センターは、茨城県生活環境部環境政策課の内部組織であり、生物多様性の保全の施策の推進拠点として、生物多様性の保全に関する普及啓発、情報収集、調査を実施しているところでございます。

2年目を迎えた当センターでは、生物多様性についての理解を深め、自然とのふれあいを通じて自然の恵みを感じられるよう、様々な主体と協力してイベントを実施してまいりました。

また、特に、県内の希少野生動植物や生物文献の情報を検索するためのデータベースの構築を進め、その第一段階として茨城版レッドデータブックに掲載されている動物についての情報を公開いたしました。

設置3年目においては、引き続き、生物多様性の主流化を推進するための様々な啓発を行います。また、県内各地で希少野生動植物や外来種の生息状況について情報を収集するとともに、平成30年本県で開催予定の第17回世界湖沼会議2018に向けて、霞ヶ浦と周辺における生物多様性の現況を調べます。さらに、ミズヒマワリやオオキンケイギクなどの特定外来生物への対応も進めてまいります。

本県の生物多様性の保全には、県民の皆様のご協力が必要ですので、皆様と直接お話しできる機会を積極的につくり、連携して進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

平成29年6月  
茨城県生活環境部環境政策課  
生物多様性センター長 山根 爽一

## 目次

I	生物多様性センターの概要	3
II	主な活動実績	
1	普及啓発事業	
(1)	映画とのコラボ企画の実施	4
(2)	ヒヌマイトトンボと昆虫観察会	5
(3)	ひぬま流域クリーン作戦	6
(4)	筑波山臨時ビジターセンターの開設	7
(5)	生物多様性企業説明会の開催	8
(6)	涸沼ラムサール条約登録1周年記念イベントの開催	9
2	普及啓発用ツールの作成	
(1)	生物多様性説明用パネルの作成	10
(2)	自然観察会などのイベント情報の提供	10
3	データベース構築	11
III	調査・研究	
	特定外来生物（植物）の定着・侵入状況調査	12



ミズヒマワリ（特定外来生物）



オオキンケイギク（特定外来生物）



# I 生物多様性センターの概要

## 1 設置の目的

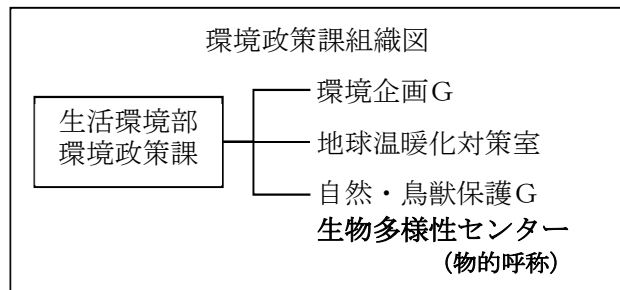
県が平成26年10月に策定した「茨城の生物多様性戦略」に基づく、生物多様性関連施策の推進拠点として平成27年4月1日に設置。

## 2 組織（平成28年4月1日現在）

茨城県生活環境部環境政策課に属し、一体となって業務を推進(右図)。

### 【職員構成】

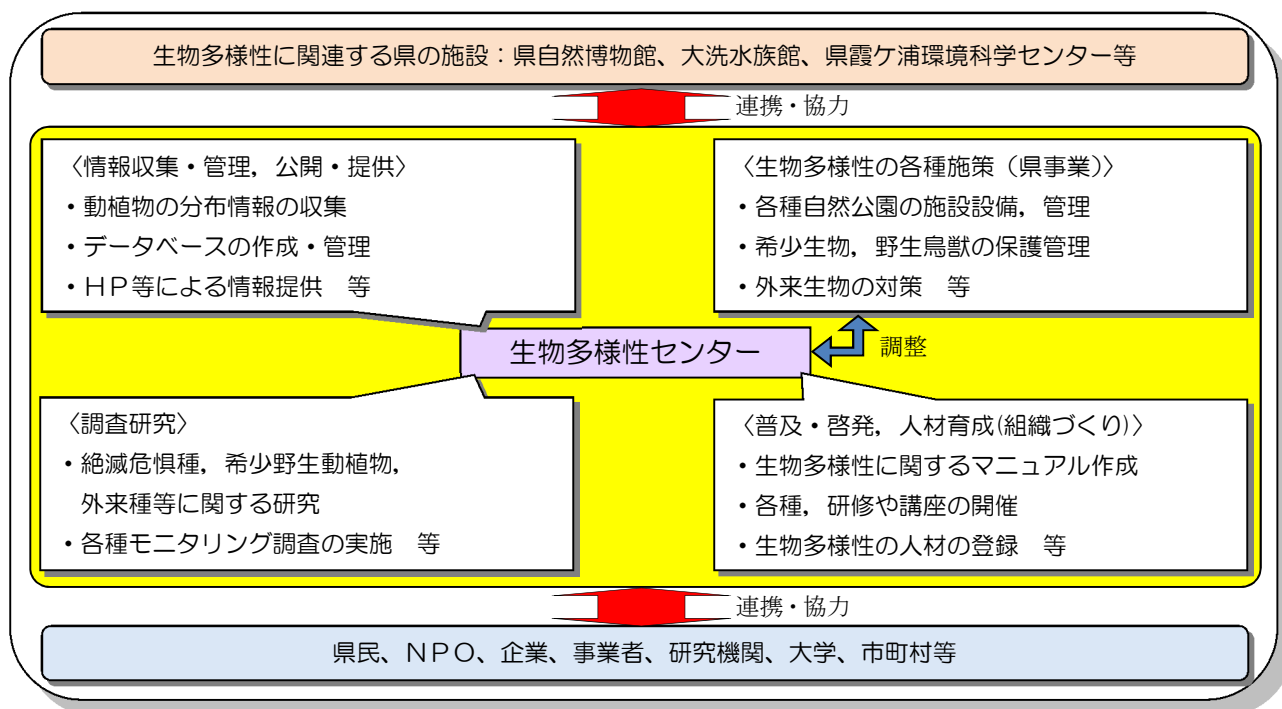
センター長を含め、6名の職員で構成。  
 センター長（非常勤）、副センター長、  
 課長補佐（自然・鳥獣保護G課長補佐兼務）、  
 係長、嘱託職員2名（国定公園管理員2名）



## 3 主な業務

- ① 地域戦略の普及啓発  
 講演会や県民との意見交換会等を通じ、「茨城の生物多様性戦略」の普及啓発を行うと共に、生物多様性戦略を推進する人材を育成する。
- ② 情報の収集及び発信  
 県や研究機関、市町村、環境団体などが持つ県内の生物に関する情報を収集し、広く県民に発信する。
- ③ 環境団体等との連携  
 県内外の環境団体との情報の共有や各種調査への協力体制を構築する。
- ④ 各種調査の実施  
 希少野生生物の現状把握や外来生物の侵入・定着状況を把握するための調査を実施する。

### 【茨城の生物多様性戦略における生物多様性センターのイメージ】



## II 主な活動実績

### 1 普及啓発事業

#### (1) 映画とのコラボ企画の実施

「植物図鑑 運命の恋ひろいました」の公開に合わせて、県内各地の環境団体等の協力を得ながら、映画に登場する植物などを中心とした身近な植物の観察会を県内各地で実施した。

映画の監修を行った国立科学博物館つくば実験植物園との共同企画として行ったもので、341名が参加し、アンケート回答者の6割からまた参加したいとの回答を得た。



国立科学博物館筑波実験植物園

<実施日> 平成28年5月21日(土)～6月18日(日)

<実施団体等>

(笠間市) 笠間環境を考える会  
(大子町) 八溝自然たんけんたい  
(つくば市) 国立科学博物館  
筑波実験植物園  
(阿見町) 阿見野草の会  
(常総市) 自然友の会  
(北茨城市) 北茨城野草サークル  
(筑西市) 里山を守る会

(牛久市) 牛久自然観察の森  
(坂東市) 茨城県自然博物館  
(日立市) 北茨城野草サークル  
(常陸大宮市) 緒川薬草研究会  
(那珂市) 茨城県植物園  
(かすみがうら市) かすみがうら市  
雪入ふれあいの里  
(水戸市) 水戸市森林公園

参加者数計341人



北茨城野草サークル



茨城県植物園



かすみがうら市雪入ふれあいの里



県央地区



## (2) ヒヌマイトトンボと昆虫観察会

涸沼のラムサール条約登録記念シンポジウム開催に合わせて涸沼周辺において平成27年度にヒヌマイトトンボの観察会を実施した。その時期に合わせて、今年度は茨城町と共同で「ヒヌマイトトンボと昆虫観察会」を実施した。参加者は、ヨシ原の中でヒヌマイトトンボを観察したり、涸沼自然公園内で昆虫採集を行った。昆虫採集ではカブトムシやクワガタ、トンボなどを発見した参加者の子どもたちが喜んでいた。



ヒヌマイトトンボ観察会の様子

<実施日> 平成28年7月9日(土)

<場所> 涸沼自然公園及び涸沼周辺地域

<参加者数> 約65人



開会式



ヒヌマイトトンボの観察



昆虫採集



昆虫採集



### (3) ひぬま流域クリーン作戦

クリーンアップひぬまネットワーク及び大好きいばらき県民会議の主催で毎年行っている、「ひぬま流域クリーン作戦」において、昨年に引き続きゴミ拾いだけでなく、生物多様性保全の普及啓発を兼ねてオオキンケイギクなど外来生物の除去も合わせて実施した。会場において外来生物や今回除去する植物（アレチウリ、オオキンケイギク、セイタカアワダチソウ）の説明をパネルなどにより行った。その後参加者と一緒に涸沼周辺のゴミ拾い及び外来植物の除去作業を行った。

<実施日> 平成28年7月16日（土）

<場所> 涸沼自然公園駐車場及び涸沼周辺地域

<参加者数> 724名



外来植物の説明の様子



開会式



作業開始



外来生物説明準備



駆除結果



#### (4) 筑波山臨時ビジターセンターの開設

筑波山利用の活性化を目指して、今年度新たに制定された「山の日」に合わせて筑波山臨時ビジターセンターを開設した。

県自然博物館よりはく製等の資料を借用し、筑波山に生息する動植物の説明を行うとともに、昨年度国内希少野生動植物種に指定されたツクバハコネサンショウウオの講演や筑波山のショートガイドを行い、多くの登山者が来場した。

<実施日> 平成28年8月 6日(土)～  
11日(木)【山の日】

<場所> 筑波山ケーブルカー 筑波山頂駅2階

<来場者数> 818名



臨時ビジターセンターの様子



会場設営時



ムササビ・モモンガのはく製



ショートガイド



ツクバハコネサンショウウオについて講演

## (5) 生物多様性企業説明会の開催

生物多様性の保全の必要性について企業の担当者に啓発を行うため、生物多様性企業説明会を実施した。生物多様性に関する説明を行うとともに、生物多様性保全活動を実施している企業から活動内容の説明やその意義について、さらに銀行からの環境活動に対する融資等について説明していただいた。

企業や市町村から参加者が集まり、企業の取組状況などについて熱心に聞いていた。



説明の様子

<実施日> 平成28年11月17日(木)

<場所> 水戸生涯学習センター 大講座室

<参加者数> 47名

<説明者> (株)小松製作所 生産本部茨城工場 総務部安全環境課 平澤千春課長  
(株)常陽銀行 公務部 佐藤潤一郎次長  
県生活環境部環境政策課生物多様性センター 山根爽一センター長



説明会開始



説明者



## (6) 涸沼ラムサール条約登録1周年記念イベントの開催

涸沼がラムサール条約登録湿地となつてから1年が過ぎたことを記念し、涸沼ラムサール条約登録1周年記念イベントと題し、涸沼の貴重な財産であるヒヌマイトトンボの講演と、既にラムサール条約に登録され、ワイズユースに向けた活動を行っている方々のお話を伺いながら、涸沼の今後を考えるパネルディスカッションなどを行った。

市民団体や企業、市町村などから参加者が集まり、市民団体の取組状況などについて熱心に聞いていた。



説明の様子

<実施日> 平成29年2月4日(土)

<場所> いこいの村涸沼 多目的ホール

<参加者数> 147名

<説明者>

- ・基調講演 茨城県自然環境保全審議会 小菅次男会長
- ・パネルディスカッション  
(渡良瀬遊水地) 国土交通省利根川上流河川事務所 小栗幸雄副所長  
栃木市遊水地課 荒川明課長  
(谷津干潟) 習志野市谷津干潟自然観察センター 芝原達也副所長  
(涸沼) 茨城町企画政策課ラムサール推進室 田口眞一室長  
(コーディネーター) 茨城県環境政策課生物多様性センター 山根爽一センター長



説明会開始



説明者

## 2 普及啓発用ツールの作成

### (1) 生物多様性説明用パネルの作成

生物多様性に関する普及啓発を目的として、生物多様性の概要や外来生物についての理解を深めるためのパネルを作成し、涸沼クリーン作戦や企業説明会などで掲示した。

パネルは5種類を2セット作成し、要望があれば貸し出しが可能である。



### (2) 自然観察会などのイベント情報の提供

県内で実施する自然観察会などの日程を月別、団体別にまとめ、県内のどの地域で自然観察会を実施しているかをわかりやすくまとめたものを、生物多様性センターホームページ上に掲載した。

これにより身近に実施されている観察会の情報を、より多くの人に知らせ、参加してもらえるようにした。情報提供団体が7団体と少ないため、今後情報量を増やしていくことが課題となっている。



### 3 データベース構築

平成27年度から研究者を初め、在野の研究者や一般の人々が、県内の生物に関する様々な情報を共有することのできるデータベースを構築している。平成27年度はデータベースの枠組みを作成した。平成28年度は、データベースに茨城県レッドデータブックの情報を入力する作業を進め、動物編のデータの入力と編集を完了し一般に公開した。

#### (1) データベースの種類

下記の2種類のデータベースの開発を行った。

##### ① 生物種データベース

キーワードから県内の生物種（希少生物、外来種、再侵入種）のデータを検索し種名、高次分類名、分布状況、生物学的特徴、写真等を検索結果として見ることができる。

検索はウェブ上で行うことができるが、個体の発見情報等については、オフラインで管理することも可能である。

##### ② 生物文献データベース

キーワードから生物種に関する情報が掲載されている定期刊行物や冊子等を検索することができるデータベース。既に検索システムが確立している学会誌や研究機関・大学等の出版物ではなく、県内の在野の研究者や任意団体の定期刊行物などを対象とし、それらに掲載されている生物種等の情報を調べるためのシステムである。

#### (2) 28年度の実績

- ・ 生物種データベースにおいて、県レッドデータブック（動物編）データの入力と編集、掲載写真の著作権者への承諾手続き完了、データの公開。
- ・ 県レッドデータブック（植物編）の入力作業開始。

#### (3) 今後の予定

今後は県レッドデータブック（植物編）、生物文献データベース、外来種などのデータ入力を順次進めていく。

### Ⅲ 調査・研究

#### 特定外来生物（植物）の定着・侵入状況調査の実施

##### ① 調査内容

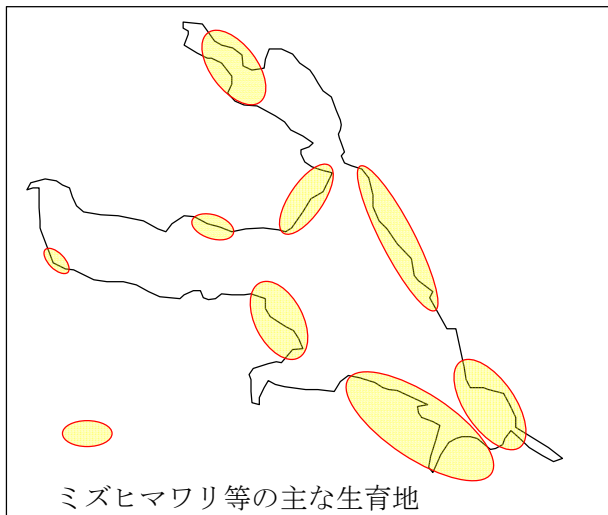
既に県内に侵入が確認されている特定外来生物について、その分布状況を確認するため、霞ヶ浦湖岸の特定外来生物の確認状況調査を実施した。

調査種類—ミズヒマワリ・オオフサモ・ナガエツルノゲイトウ

調査地区—土浦市，かすみがうら市，小美玉市，行方市，稲敷市，石岡市，潮来市の霞ヶ浦湖岸

##### ② 調査結果

- ・ミズヒマワリについては、霞ヶ浦湖岸のほぼ全域で分布が見られたが、コンクリート護岸ではほとんど見られなかった。
- ・ナガエツルノゲイトウの群落をかこむようにミズヒマワリの群落が見られた地区があった。
- ・霞ヶ浦湖岸につながる水路などで、オオフサモの繁殖が多く見られた。



行方市手賀 蓮田近くのミズヒマワリ  
(H28.10.26)



行方市麻生 (H28.10.26)

\*ミズヒマワリの群落の中心部分が、ナガエツルノゲイトウの群落となっていた。



小美玉市下玉里 (H28.10.29)

行方市沖洲、行方市羽生などでも水路に繁殖するオオフサモが多数見られた。

